

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校6年生、中学校3年生は全国学習状況調査、その他は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、今年度から国語、算数(数学)共にこれまでのA問題、B問題の区別なく「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題調査となりました。また、今年度は、中学3年生において、3年に1度の英語の「話すこと」調査も実施されました。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

平成31年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（若木）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学	66.7		49.4	
現5年	(1.02)		(0.76)	
H26 入学	67.9	74	70.4	66
現6年	(1.02)	(1.16)	(1.00)	(1.00)
H31 正答率の全国比		(1.16)		(0.99)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

第6学年の全国学習状況調査の結果では、国語科において全国や県よりも高い正答率となった。算数科は、全国や県とほぼ同じ正答率となった。問題別では、国語科の「相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫」がやや低かった。算数科では、「台形の識別」「計算の決まりを基に他の問題に活用する」「単

位置あたりを基に求め方や答えを記述する」等が全国や県に対してやや低かった。記述式の問題では、いくつかの条件には適合するものの、必要な条件を満たしておらず、正答に後少し足りないという問題もいくつもあった。正確に記述するといった力がさらに必要である。

第5学年の佐賀県学習状況調査の結果では、国語科においては、県の平均とほぼ同じであった。算数科においては、県に対して0.76の達成度と、県よりも低い結果であった。内容を見ると、「小数の加法」「わり算の筆算の仕方」「複合図形の面積」等が低い結果であった。「数と計算」等の基礎基本の着実な習得が課題である。

2 意識調査の結果から

第6学年の意識調査の結果では、「朝食を毎日食べる」「同じ時刻に起きる・寝る」「学校の決まりを守る」等が高い傾向にあり、基本的な生活習慣が身につけている。学習については、国語科や算数科の学習が「好き」「将来、役に立つ」の割合は高いものの、「自分で考え、問題解決に取り組む」「考えが伝わるよう工夫する」「話し合いを通じて考えを広げる」等の項目が低く、学習に対する主体性・学び方の面での指導が必要である。特にそれぞれの考えを発表し合い、高めていく協働的な学習の充実が重要である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

今年度の学力向上対策シートで掲げた重点内容は、次の2つである。

1つ目は、継続して西部型授業に取り組むこと。授業中の「めあて」や「まとめ・振り返り」については、児童に提示したり、高学年では、児童の意見を取り入れながら一緒に設定したりしていく。ノート指導の中で児童に意識させるために、「めあて」を青枠「まとめ・振り返り」を赤枠で囲むようにしている。

2つ目は、書く活動の充実である。西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。また書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での練り合いを通してそれぞれの考えを高めていきながら、協働的な学習の充実を図ることが大切である。練り合いでは、児童の考えの予測、発表の取り上げ方の計画、話し合いの視点の持たせ方など十分な教材研究が必要となってくる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 家庭学習の充実

若木小学校作成の「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の内容や学習時間等についての共通理解を図る。また、自主学習のやり方のヒント等も示しながら、高学年においては週1回程度自主学習に取り組みませたい。さらに小中連携とも関連し、家庭学習強調週間を年に3回程度設定し、自主学習に積極的に取り組む機会としたい。

2 読書の充実

家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置づける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。また、これまでに行ってきた「家読」の方法を見直し、親子での読書活動の充実を図りたい。